

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2254号 2015年03月30日（月曜日）

《 nervous and volatile 》

どう考えても期末期初要因もあって、マーケットが荒れる環境が整っている時期です。今週もそうでしょう。一番景気が強かったアメリカが、寒波の影響もあってか経済指標に弱さが見える中ですが、それでも「利上げ」に向かう。しかしその後の利上げペースは緩やか。一方景気が弱かった日本と欧州では景気回復の兆しはあるが、中央銀行は強烈的な金融緩和をしていて、今後さらに緩和を強化する可能性がある。株と債券は「高値懸念」があるが、だからといって他に資金を流出させる場所があるわけでもなく、高所恐怖症にかかりながら内に資金を滞留させている……。

つまり色々なベクトルがクロスしまくっている。中でも一番不安定なのは債券相場です。先週金曜日の日本の債券市場は、新発10年物国債の利回りが一時0.080%高い0.405%に上昇。これは今年最大の上昇幅。ドイツの金利に比べて相当高い。「日銀が大量に国債を買い続けている結果、市場の取引が細っており、投資家の売りが出ると相場が崩れやすくなっている」（日経）との見方が多い。

金曜日は東京の株式市場も不安定な動きだった。権利落ちにも関わらず午前中は「ほぼ」110円（日経平均で）に相当」と言われた権利落ち分を十分に埋めて、さらに100円高ほどにまで上がっていた。しかし午後には急落して、「300円安」くらいまでであった。経済専門テレビの解説者達が右往左往しているのが笑えるような状況だった。午前中はさんざん「強いですね……」と言っていたが、午後は言葉を失って、「なぜ下がったか」を一生懸命理屈で解説しようとしていた。株に関しては今まで安定して推移していたドイツの株に“疲れ”が見えるのも世界の市場を不安定にしている。

繰り返しますが、今はいろいろな力が別々の方向からかかっている。ドルに関しては先週も指摘しましたが、FRBから「景気に対する悪影響力」としてのドル高には懸念が表明されている。特にユーロ（ドル相場を計る上でもっとも重要）に関してはアメリカにはあまりユーロ安を許容したくない理由がある。それはドル・円に関しても同じような状況で、日本サイドについては「これ以上の大幅なドル高・円安は望ましくない」「特にスピードのある」という姿勢は明確だ。しかし「ではドルを落とすのか、それともステイさせるのか」ということに関しては、いろいろな見方が出来る。かつ実際にはアメリカの方が先に利上げに動くという事情は変わっていない。

商品相場にはやや落ち着きが見える。原油相場は先週バレル50ドルの水準を回復した。

中国の成長率は下がり続けているが、インドの成長率は中国を上回るまでに上がってきていて、途上国経済にも明るいスポットがあることと、日欧の景気が少しよくなっていることも、市場の雰囲気をも明るくしている。しかし紛糾しながらも「合意が近い」とされるアメリカとイランの核協議が合意に達すれば、イランの原油が大量に世界市場に流れ出てきて、これは原油相場をもう一度下げる力になるとの見方もある。つまり、クロス・カレントでマーケットは不安定状態にあるということだ。

しかし全体的には、世界を駆け巡る資金の量の多さを考えると、不安定で調整を入れながらも、株と債券は高い相場水準を保ちそうだし、ドルは「先行きの利上げ」を考えると、それほど大きな下落はなさそうに見える。

《 watch numbers 》

今週はそういう意味で経済指標に目が注がれるだろう。欧州でもアメリカでも、そして日本でも重要な経済指標が数多く出る。特に週末に発表になる米雇用統計は、「雇用だけが良い指標となっている」と言われるアメリカ経済の現状において、もし弱い数字が出たら大きな相場要因になる可能性がある。それがドルの下落に繋がるからだ。既にドルは対ユーロでは相当大きな下げになっていて、やはり目安としては非農業部門就業者数で20万増の大台を維持できるのか、それと賃金の上昇がどの程度になるか、でしょう。今発表されている米経済指標は、今年の冬にアメリカを襲った寒波の影響がどの程度あるのか不明な点があって、マーケットがアメリカ経済の立ち位置をはっきり判断できるのはもうちょっと先だ。

一方で日本と欧州では、景気の改善を示す数字がやや多くなってきている。「さすがに金融緩和が効いてきた」とも受け取れるが、「緩和が効いた」というよりも「自律的に」の側面もあるように思う。なお先週金曜日の午後に講演したイエレン FRB 議長は「年内の利上げが適当」、「フェデラルファンド（FF）金利の回復は緩やかになるとみている」などと述べたが、これは18日のFOMC後の記者会見や、23日のフィッシャー副総裁の講演をほぼ踏襲した内容。特にマーケットの材料と受け止められることはなかった。

今週の主な予定は以下の通り。

- | | |
|-------------|--------------|
| 03月30日（月曜日） | 2月鉱工業生産 |
| | 3月上旬貿易統計 |
| | 2月建設機械出荷額 |
| | 独3月消費者物価 |
| | 米2月個人消費支出 |
| | 米2月仮契約住宅販売指数 |
| 03月31日（火曜日） | 毎月勤労統計 |
| | 2月自動車生産 |

	2月住宅着工
	独3月失業率
	ユーロ圏3月消費者物価
	ユーロ圏2月失業率
	米1月S&Pケース・シラー住宅価格指数
	米3月シカゴ購買部協会景気指数
	米3月コンファレンスボード消費者信頼感指数
04月01日（水曜日）	3月日銀短観
	豪2月住宅着工許可件数
	中国3月PMI指数
	韓国3月消費者物価
	インドネシア3月消費者物価
	3月新車販売
	30日時点の給油所の石油製品価格
	2月末税込実績
	3月百貨店各社の売上高速報
	米3月ADP雇用レポート
	米3月ISM製造業景況感指数
	米2月建設支出
	米3月新車販売
04月02日（木曜日）	3月日銀短観の企業の物価見通し
	3月マネタリーベース
	3月国内ユニクロ売上高
	欧州中央銀行理事会の議事要旨(3月4~5分 20:30)
	米2月貿易収支
	米2月製造業受注
	休場=インド
04月03日（金曜日）	米3月雇用統計
	休場=香港、台湾、シンガポール、インドネシア、インド、オーストラリア、イギリス、ドイツ、フランス、イタリア、ギリシャ、スペイン
	アメリカの株式・商品市場は聖金曜日で休場 (債券市場は短縮取引)

《 have a nice week 》

日本は「見事な桜、花の国だ」と改めて思う週末でした。日頃は人影も少ない千鳥ヶ淵も早朝から昼間は緑道、公園とも結構な人出でしたが、日曜日の夜の千鳥ヶ淵は人も少な

く良い夜桜見物スポットになっていました。今の日本は関東以西だったらどこでも、花見が真っ盛りなのでしょう。

珍しく日曜日に千鳥ヶ淵に行ったのは、夕方一雨来たからです。人も少なくなっただろと思いましたが、風もなかったから。おまけに昨日は気象庁から「満開」宣言が出た。靖国神社（沢山出ている屋台を見学）を經由して午後8時半頃ですかね。横断歩道橋を渡って千鳥ヶ淵の九段サイドから入る入り口に、遠くに東京タワーが臨めるスポットがあった。これが綺麗でした。さすがにカメラを構える人が多かった。

公園に向かって少し歩いて中程の開けた場所も綺麗でした。方向的には大手町、丸の内の方。そこはとっても水面に写った桜が綺麗だった。千鳥ヶ淵の緑道の桜が綺麗なのは、要するに「反対側の江戸城サイドにも桜が沢山ある」（千鳥ヶ淵の公園は片サイドです）「それが水面に映る」ことですが、昨日はそれが完璧でした。

それにしても、印象として「外国人が多い」でした。結構海外の言葉が聞けた。「桜ツアー」（観光庁が宣伝）で来た人でしょうか。それとも国内に居住している人。そういえば靖国神社の屋台で食事をしている人の中にも、海外の人が多かった。

では皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》